

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立三池工業高等学校(全日制課程)

71

自己評価 学校運営計画(4月)
学校運営方針: 平和的な国家や社会を形成するため、真理と正義を愛し豊かな心を持ち、たくましく生きる心身と共に健康な工業技術者を育成する。
【成果】: 基本的な生活習慣(皆勤の増加)及び授業規律の確立、専門性の高い資格取得の増加及びジュニアマイスターの実績、学校行事等の実施による生徒会活動の活性化、ものづくりを中心とした地域貢献活動の実施、教育相談の充実と関係機関との連携による個に応じた対応の実施、企業や大学等の情報収集と的確な指導による進路指導の充実
【課題】: 1人1台端末によるの活用によるアクティブラーニングの視点に立った授業改善の推進、育成したい資質・能力に基づいた観点別学習評価の充実による授業における指導・評価の改善、学校行事の実施形態を工夫し、所属感・連帯感を深める生徒会活動における主体的活動の推進、いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応のための組織的体制の構築、「ものづくり」教育、知的財産教育、資格取得をととした職業教育の充実、キャリアパスポート、進路指導ガイダンス、インターンシップ等の充実によるキャリア教育の推進

A A

評価項目: 教務課, 図書課, 情報課, 生徒指導課, 生徒育成部, 保健課
具体的目標: ICTを活用した授業改善の推進, 基礎学力の向上と転退学者の減少, 図書利用を通して、知に親しむ生徒の育成, 芸術鑑賞を通して、豊かな情操を育む生徒の育成, ICTを用いた授業の推進のための環境整備, 校内ネットワークの維持・管理, 生徒指導・自己指導能力の育成, 交通安全マナーの徹底, 生徒会活動, 健康な心身の育成及び自己管理ができる生徒の育成, 生徒保健委員会の活性化, 保健指導、安全指導の充実
具体的方策: 主体的・対話的で深い学びによる「アクティブラーニング」の視点にたったICTを効果的に活用した授業改善を図る、生徒の授業アンケートや職員のリブリック評価を基にした、新たな学びプロジェクトに積極的に取り組む、観点別評価を示したシラバスの作成と学習内容の理解、資質・能力の向上を図る、学習アプリ等を活用した、基礎学力の向上を図る、「授業規律について」の取組みを啓発し規律の定着を図る、生活アンケートの活用や関係部署と連携し、転退学者の減少を図る、定期考査の計画と実施を円滑に行い、教室の整備、監督業務の徹底を図り、公正の確保に努める、検定試験の計画と実施を円滑に行い、取得状況の把握を行う、資格取得を啓発し、ジュニアマイスター表彰者数100名以上を目指す、朝の10分間読書に継続して取り組み、読書に親しむ雰囲気醸成することで、知的好奇心を育てる、図書委員会活動をサポートし、各種研修会等への積極的な参加を促す、学習活動に必要な蔵書等の資料を充実させ、公共図書館との相互貸借を活用しレファレンスサービス(資料提供)や広報に努め、また社会の出来事や各種記念日などに対応した図書の展示など、レイアウトやイベントの工夫を行い、生徒の利用促進を図る、芸術に対して各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする、ステージ鑑賞をすることで、芸術の良さや美しさを深く味わい、生徒自身が創造的な表現をできるようにする、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、よりよい生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培わせる、全職員が必要な情報を即座に抽出できるようなデータベースを3つ以上作成する、1人1台端末に関する運用方針・規約を随時更新し、生徒・教員にルールの遵守を促す、生徒1人1台端末・教員用端末等と学習アプリの活用法の研修を行い授業改善を図る、サーバ内の整理・整頓や、連絡黒板・職員用メール・Google for Education等のさらなる活用など、ネットワークの使いやすい環境を整える、校務用パソコンやタブレット端末等の保守・管理を円滑に進め、快適なネットワーク環境を維持する、情報課の連絡を徹底するため、セキュリティ委員会等を組織再編し、構築を図る、あらゆる機会を通して生徒に対し、日常生活の様々な場面で適切な判断のもと実行できる力を育成する、生徒に規範意識を持たせるために、立ち止まって挨拶する3S(speed, stop, smile)を徹底する、いじめ問題について、全職員共通理解のもと未然防止・早期発見・早期対応に組織的な取組を推進する、登下校指導を計画的に行い、加害者にも被害者にもならないために、交通安全マナーの指導を徹底する、自転車通学者・バイク通学者に対して、安全点検やヘルメット着用とともに安全運転の指導を実施する、本校に乗り入れする自転車や通学に利用するバイクにおいては、任意保険の加入率100%を図る、リーダー研修等を通し、学校行事の実施形態を工夫し、所属感・連帯感を深める生徒会活動を推進する、清掃委員会を中心に、定期的に強化週間・重点区域を設け、校内環境整備の徹底を図る、ボランティア活動やユネスコスクール活動等を通して、持続可能な開発のための地域貢献活動を推進する、全職員による教育相談を年3回実施し、生徒理解を深める、保健室来室の生徒状況を把握し、自己管理に向けたアドバイスや適切な指導・支援を行う、知りえた情報を基に、各担任やSC、各関係機関と連携を取り、十分なサポートが取れる体制を整える、各種検診での円滑なサポートができるようにするとともに、校内での環境衛生面の啓発を随時行う、委員会活動の充実を図り、リーダーとしての資質育成と学校衛生面への貢献を目指す、保健だよりをできるだけ発刊し、感染予防の啓発や季節に応じた注意喚起ができるようにする、QRコードを利用した健康観察システムを活用し、生徒が自らの健康について自己管理できるように指導を行う、薬物乱用防止講演会・いのちの講演会などの各種講演会を実施し、正しい知識と強い意志、いのちの大切さや他人を尊重する考えを身につけさせる、救急救命講習会を行い、部活動等における緊急時の対応が誰でも取れるような体制を整える

学校関係者評価
自己評価は: A: 適切である, B: 概ね適切である, C: やや適切である, D: 不適切である

項目ごとの評価: 学校関係者評価委員会からの意見
1人1台タブレット端末でICTを活用した授業展開の取組ができており、授業アンケートなどから、先生方の授業改善に向けた意識が感じられ丁寧な学習指導がなされている。また、学習アプリを導入し基礎学力の定着や向上に少しづつではあるが成果も出ている。今後も、学習指導要領に沿った魅力ある授業の展開に心がけるとともに学習習慣を身に付ける取組をしていただきたい。観点別評価では、テストだけでなく生徒の意欲や関心など、あらゆる面から生徒一人ひとりの個性や特長を評価することはよいことである。特に、シラバスを生徒に提示し評価規準を示すことは生徒の学習意欲に繋がると考える。今後も観点別評価の規準等を生徒や保護者に周知して、さらに推進してほしい。「朝の読書」活動や「図書館便り」など本に親しむ工夫や取組がなされている。今後も読書活動に努め知的好奇心の育成に繋げてほしい。ICT活用のための研修会など適宜なされている。また、校内ネットワーク環境の管理に取り組んでいる。タブレット端末を持ち帰ることで破損等が起ることで、タブレット端末の取扱等の指導を行い適切な使用に心がけてほしい。成績処理等については、校務支援システムでデータ処理や管理をスムーズに実施することで効率的な業務の実施に繋がることができればと思う。

A

A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
進路指導部	進路希望の実現	進路指導部で得た情報を担任や科主任等と共有する。また、生徒が主体的に進路調べ活動をするガイダンスを設定する。	A	A	A	今年度の3年生は、就職(学校紹介)内定率100%を達成し(1次合格率は94%で昨年度より1ポイント減)、進学は36名(大学17名、専門学校19名)合格し、公務員は延べ12名実数6名(1次合格延べ16名)合格した。特に、就職は企業内学園生に9名合格、進学は新規大学や医療系にも合格、公務員は延べ12名実数6名合格とV字回復できた。 次年度の主な課題は、就職:学園生や技術職のさらなる増大、進学:難関大学等のさらなる受験と合格、公務員:希望者全員の合格とさらなる増大である。これらを目指すため、SPI試験を含む校外模試を活用し、校内のみならず他校生とも切磋琢磨させ進路実現に向けた高い意識のもと実力の向上を図る。また、学習アプリも活用し家庭学習の習慣化に向けた方策を教務部、学科、学年団と連携しながら工夫に努め、進学・公務員課外を試験科目・内容により対応させていく。	A	就職内定率の100%達成や進学の実績から指導やサポート体制がしっかりできてきている。特に、今年度は公務員の内定者が大幅に増加したことは、昨年度からの補習の時期や内容など体制づくりを図った取組の成果である。今後も、取組の継続を図るとともに更なる工夫を行い進路指導の充実にも努めてほしい。 キャリア教育については、外部講師による講演会やキャリアパスポートの活用など、生徒が早期に自分の進路について意識付けができるよう工夫し対応してあるので、今後も情報の収集と提供の充実をお願いしたい。 インターンシップにおいて、保護者や関係機関の協力を得て実施できたことはよかった。社会を見ることで仕事の意義や大切さを知るよい機会であるので、進路の意識付けに繋げるようにしてほしい。また、学習アプリを活用し生徒自身の進路に沿った学力の向上を図り進路実現に繋げてほしい。
		オーブンキャンパスや公務員専門学校短期講習への参加を促し、早い時期から進路実現に向けたより効果的な対策をするよう意識の向上を図る。	A					
		就職選考試験一次募集での合格率95%(昨年度)以上を目指す。	B					
	企業が求める人財の育成	進路希望を実現するために、求められる人物像や必要なスキル等を考えさせ、将来像を具体化させる。	A					
		望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技術(学園生・技術職レベルを目標)を身に付けさせる。	A					
		工場見学・職場見学等を十分に生かし、生徒が自分の適性に合った企業を選択できる能力を養成する。	A					
	進路実現に向けた学力の向上	課外は自学の補完であることを明確にして運営する。公務員課外や進学課外を充実させ、合格者増を目指す。	A					
		就職問題集やSPI等の参考書を自学しやすいものにして、就職模試にも事前勉強をして取り組めるよう時期や内容を設定する。	A					
		進学学習続けるための勉強の仕方とも意識させ、自学をさせる。また、進学希望者には早い時期に入試内容を確認させる。	A					
		キャリアパスポートを学校行事でも定期的に振り返らせ活用させる方策を工夫する。	A					
キャリア教育推進課	キャリア発達の促進	キャリア教育計画に基づくHR活動の体系化のさらなる充実を図り、1年次からキャリア教育を促進する。	A	A	キャリアパスポートを成績だけでなく人間的成長も評価し、学期や行事ごとに振り返りできる様式にした。2年生は地元商工会議所からの協力もいただきインターンシップ先を確保、実施できた。1年生はキャリア教育を一学期から実施することができ、早めの意識付けを図れた。進路ガイダンスも企業をブースごとに実施し、より具体的なものにした。また、学習アプリを新規導入した事で、生徒の進路実現に向けた自学に役立っている。次年度の課題は、キャリアパスポート、インターンシップ、進路ガイダンス、学習アプリの活用をさらに充実・発展させた内容を図るとともに各学年と連携し共通理解のもとに進めていく。	A		
		インターンシップ等を工夫することにより、職業理解や自己理解を深めさせる。	A					
		社会常識を培わせ、「心のこもった挨拶」「感謝する心」「整理・整頓する習慣」を育成する。	B					
	社会人を見据えた振舞い等の育成	環境や目的に応じて自分の気持ちを相手に伝える力(コミュニケーション能力)の向上を図る。	B					
		学習アプリを活用して、自身の進路目標に沿った自学に励ませる。	A					
企画課	他分掌との連携	他分掌と連携を強化し、業務の最適化を図る。	B	A	学校行事においては、早期の計画・立案を意識しながら余裕をもって運営していくことができた。また、実施後のアンケートなどにより改善箇所の変更などにも着手することができた。 PTA活動においては、本年度、ロードレースや体育祭、三工祭、マラソン大会の三工祭とコロナ禍以前の取り組みを実施し、多くの保護者に参加していただいた。PTA役員と打合せながらよりよい方法を考えながら取り組む事ができた。 次年度の課題としては、各分掌との連携を更に固りながら行事全体を見直ししていくことが挙げられる。年間行事予定の段階で計画されていない行事等があるため急な変更が多く見受けられた。計画段階で見通しが立てられるよう各分掌との情報共有を密にしなが進めていきたい。体験入学に関しては、教務部との連携が図れておらず実施要項作成が後手に回ってしまった。実施時期や内容についても特色化選抜を考慮した形態へ変更していく必要がある。	A		
		早めに計画・立案することで、事前準備を徹底し、各行事を円滑に実施する。	A					
		各行事において事後アンケートを実施し、次年度以降の工夫や改善に繋げる。	A					
	PTA活動の活性化	PTA活動を通して、保護者と学校との連携を深め効果的な教育活動に繋げる。	A					
		各行事等において、多くの保護者に関わっていただけるように早期の案内を徹底する。	A					
		各委員会の活動の推進・支援を行い、活性化を図る。	B					
	魅力ある体験入学の実施	教務部と連携を図りながら本校の魅力を伝えられるような体験入学を企画する。	A					
		生徒会と連携を図りながら生徒による学校紹介など受験生増加に繋げるための取組みを実施する。	B					
		今までの体験入学の内容を見直し、時代に合わせた体験内容にできるよう各学科と連携を図る。	B					
		ホームページ・Instagram・安心安全メールなどのSNS媒体による発信の充実を図る。	A					
企画部	地域や中学校へ向けた情報の発信	学校案内パンフレット・PTA新聞などのレベルを上げる。	A	A	広報課の枠を超えて企画部として取り組む方法が有効に働いた。しかし、その反面広報課としての役割が見失われた面もあり反省点である。広報活動が学校を上げて全生徒・全職員の協力あつてのものであり、縦横の協力支援関係が極めて大切であることを再認識した。 次年度の主な課題としては、今年度のような広報課の枠を超えて企画部として活動できるものを洗い出し個人への負担の偏りを軽減する。また、広報課会議をできるだけこまめに持ちそれぞれの取組の進捗状況を共有し、できるだけ柔軟な対応ができるように工夫する。来年度10月中旬にホームページ掲載スタイルが変更される。更新されるスタイルを期間内に完成させてより良いものとする。全職員が担当する中学校を持つ形をとり、職員個々の中学校や入試に関する意識向上と、学校教育活動における広報の必要性を体感する。	A		
		FMたんと・イオンモールや大牟田市のイベントなどでの広報活動への積極的に参加する。	A					
		2学期を中心とした中学3年生への本校説明会の充実を図る。	A					
	中学校から依頼を受けた説明会の充実	3学期を中心とした1、2年生への進路学習会の充実を図る。	A					
		出前授業、学校見学会などでの説明会について、動画などを充実させより伝わりやすいプレゼンを提供する。	A					
		体験入学に関して、リーフレット・職員訪問計画など連携分掌と連携し成功させる。	A					
	体験入学、進路相談事業などの成功	体験入学参加者増員のために本校生訪問などを折り返し関係学年と協力して成果を上げる。	B					
		進路相談事業をはじめとする外部での進路相談会について、展示物などでの後方支援を充実させる。	A					
		20回以上の研究授業の計画と実施を行い、ICTの効果的な活用法について検討していく。	A					
		研究授業合評会において、KJ法を導入し研究授業実施者への授業改善提案を明確にする。	A					
研修課	校内研修の充実と校外研修の参加促進	保護者に向けた授業参観や地域に向けた公開授業など生徒の授業に向かう姿を見ていただく機会を設定する。	B	A	昨年度に引き続き、「ICTの効果的な活用法」をテーマに研究授業を実施した。各先生方のICT導入に工夫が見られ、参観された先生方の授業改善に繋げる取り組みとなったと考える。授業参観等については、教務部等と連携を図りながら導入に向け計画を立てていきたい。 校内研修に関しては、計画通り進めることができ、外部講師による研修も2回実施することができた。また、情報課と連携しICTに関する研修も実施することができた。 次年度の課題としては、研究授業における全職員参観の手立てを考える必要がある。今後は教務部などと連携し、時間割の調整や動画記録などにより全職員で授業改善に取組む研究授業を計画する。また、校内研修においては、実施後に活用できているかの確認を行いながら教員の資質能力の向上に繋げていく必要がある。	B		
		基本研修を受講する職員への校内での研修を充実させるために、各分掌と連動し組織的な運営を行う。	B					
		校内研修においては、学期に1回程度は外部講師やICT支援員等の専門的な知見での研修会を計画する。	A					
	研究紀要の完成	キャリアアップ講座等校外研修への積極的な参加の声掛けと、実施後の学校への還元する機会を設ける。	B					
		本校の特色ある教育活動を掲載できるよう各分掌や各科との連携を図る。	A					
		新たな学びプロジェクトやウェルヘルス教育等の取組みを全職員で推進し、学校の活性化に繋げていく。	A					
1学年	教科指導	教室等の校内の美化を徹底させ、授業規律を維持して落ち着いた学習に励める環境をつくる。	B	B	教科指導では、授業に対する意欲が課題である。課題等を「その場しのぎ」及び「提出する」ことで満足している生徒が多く見受けられる。「なぜ学ぶのか」「何につながるのか」など目的を明確化し理解させることが必要である。また、自宅学習の習慣は個人差があるように思われる。教科だけではなく学年での連携が必要である。さらに授業と並行して資格試験の学習が入るため、両立が厳しい生徒がいた。各科目や教科担当と更なる連携を図りながらじっくり時間をかけた学習計画を立てさせ、成績向上と共に資格取得にも力を入れていきたい。 生徒指導では、時間厳守や挨拶励行など意識して取り組ませることができた。ただ、先を予測して行動できない状況がみられるため、粘り強く指導しなればならない。また、積極的に行き先へ変化を見逃さない姿勢を今後も継続して行う。 進路指導では、進路指導部と連携し、キャリアパスポートをしっかりと作成することができた。次年度も継続し、進路実現につながるような活用方法を今後工夫していきたい。 学校行事等においては核となれる生徒が徐々に表れているため、引き続き自己存在感、帰属意識などを持たせ、主体性を育てていきたい。また、授業をはじめ、行事などを通して生徒たち自身が考え、判断し、行動できるように指導をしていく。	B		
		授業等で学びへの意欲を高め、自主的に学習に取り組む態度を育てることで自宅学習の習慣を確立させ、成績改善者を出さない。	B					
	生徒指導	各科目と連携して、計算技術検定・情報技術検定の全員合格とその他資格取得に積極的に挑戦させる。	A					
		身だしなみ、挨拶の励行など3年後の社会人としてのあるべき姿を意識させる。	B					
	自己指導能力及び他者を尊重し他者と協働し共に高め合う力	5分前行動を心掛け、時間を守るよう意識付けを行う。	B					
		一人一人が個性を発揮しながら他者を尊重し、他者と協働する環境をつくる。	A					
	進路指導	進路指導	生徒が学科選択をする際、進路に対する希望まで考慮できるよう各学科との連携を図り選科指導を行う。	A				
			進路指導部との連携を深め、3年間を見通した計画的な進路学習を行うことで、進路意識の向上を図る。	A				
		進路意識の高揚とキャリア教育の推進	適切な時期に適切な情報を与え、進路に関する選択と目標設定を支援する。	B				
			1年間を通して、全生徒に1人1リーダー(役割)を与えることで、協調性や自主性を身につけさせ達成感を味わわせる。	B				
部活動加入率90%以上を目指し、積極的に声掛けを行いながら学校全体の活性化を図る。			B					
人権教育、HR・学年集会など様々な機会をとらえて自己を見つめさせ「認め合う」姿勢を養う。			A					
2学年	教科指導	基礎・基本の徹底による学力基盤を確立し、教科担当者と連携を図りながら学習習慣・方法を定着させ、成績改善を要する者0名を目指す。	B	B	教科指導では、各教科担当者と情報交換や連携がより重要であると実感した1年だった。次年度では、学級の雰囲気や把握し、授業の進め方や生徒へのアプローチを考えたらうで授業を行っていく。教員間では、双方向に効率の良い情報提供を心がけていく。 生徒指導面では、生徒の主体的な取り組みのサポート、教職員への信用・信頼づくりを行っている。しかし、高校生として望ましい態度が身に付いていない面も見られるため、継続的に指導し、主体的に考えて適切な行動ができる集団づくりを行っていく。そのためには、教師と生徒との間に適切な人間関係を構築することが重要なので、信頼関係をどう築いていくかを全体で確認・共有していく。 進路指導面では、インターンシップや工場見学などの実施ができ、進路意識の高揚に繋がった。今年の状況を振り返り、続けていくことと変えていくことを整理して次年度に継承していく。 学校行事や部活動では、主体的に協力して活動を行うことや責任感を持って仕事を行うことなどができるようになった。次年度は、自分の成長とともに集団としての成長が見込まれるように協力を果たしていく。また、取り組む過程の重要性を理解させながら、結果にもつながるように各関係の先生方と協力して指導を行っていく。	B		
		資格取得を推進し、意欲的に学ぶ姿勢を身につける。(予習→授業→復習の学習スタイル、家庭学習の習慣化)	A					
	学ぶ姿勢と確かな学力を身に付ける	豊かな人間関係の形成を通じ、リーダーシップとフォロワーシップの相互関係により、互いに成長できる生徒の育成を目指す。	A					
		人前で話す機会を多く作り、人の話を聞いて理解し、自分の考えを分かりやすく伝える技術を向上させる。	B					
	生徒指導	学年リーダーを育成し、生徒自身が指揮をとり、学年の連絡系統を機能させて、自律的な集団を育成する。	A					
		進路決定に関する資料、方法、情報の適切な提供に努めて、個に応じた進路指導を実践する。	B					
	進路実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を築く	工場見学やインターンシップ等の事前事後指導を充実させ、職業観を醸成する。	B					
		より高い志(進路目標)を持ち、その実現に向かって意欲的に努力する態度を身に付けさせる。	B					
		自分の役割を意識し、学校や学級に貢献できる活動を推進し、新しい時代に主体的・積極的に対応し、社会に貢献できる人材を目指す。	B					
		学校行事(修学旅行、インターンシップ)や地域貢献の活動を通して、課題解決能力やコミュニケーション能力の涵養を目指す。	B					
特別活動	部活動の中心メンバーとして活躍し、入部率85%以上を目指し、学校全体の活性化に寄与する生徒を育成する。	B						
	部活動の中心メンバーとして活躍し、入部率85%以上を目指し、学校全体の活性化に寄与する生徒を育成する。	B						

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
3学年	教科指導	学ぶことの意味を理解し、学び方を身につけ、意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせるとともに、家庭での学習習慣の定着を目指す。	A	B	<p>次年度の主な課題については、就職・進学試験に向けた指導体制のさらなる向上、学校行事の取り組み方についての見直し、就職・進学試験終了後の過ごし方の改善があげられる。</p> <p>就職・進学試験に向けた指導体制のさらなる向上では、進学面で今年度学年の普通科の先生方の協力を得て、夏季補習や放課後補習を行ったことで例年以上の進学実績を出すことができた。次年度も進学者への手厚い指導ができるように引き続きしっかり行いたい。就職試験については、各企業が面接を会話形式にシフトしているため、それに対応した指導ができるようにしていく必要がある。</p> <p>学校行事の取り組み方についての見直しでは、生徒会を中心に各行事を成功に導くことができた。今後、安全対策に十分な配慮を行い、早いうちに対策を考えよりよい改善につなげていきたい。</p> <p>就職・進学試験終了後の過ごし方の改善においては、就職・進学試験終了後の授業への取り組みに対する甘さや時間を守る意識の希薄化、日ごろの生活態度に隙が見える生徒が少し目立つようになったところがあった。このことから、目標達成後の心の持ちようや物事への取り組み方をもっと徹底して指導する必要がある。</p>
	学びに向かう姿勢の向上と基礎学力向上	担任と教科担当者との情報交換を密に行い、一人ひとりに確かな学力を定着させ、成績改善を要する者を0にする。 各種テストや模試の結果を適切に振り返り改善を重ねることで、自分自身で学びを継続できる力を身につけさせる。	C B		
	生徒指導	生徒会を中心に、生徒と教師がともに協力し合える学校行事になるようにしていく。	A		
	学校行事の成功と円滑な人間関係の構築	生徒と教師との信頼関係の確立に重点をおき、誰にでも適切な対応ができる生徒育成に力を入れる。 生徒同士が協力しやすい雰囲気作りで重点を置き、教員の適切なサポートの下、適切な人間関係が構築できる体制を整える。	B A		
	進路指導	将来を見据えた進路指導を進めていくため、社会人としての常識やマナーを身につけさせる生徒指導の側面とドッキングした指導を行う。	B		
	社会性の涵養と進路実現に向けた取組の実践	生徒一人ひとりが納得の行く進路決定となるよう生徒・保護者と情報交換を密に行い、適切な指導を実践する。 学校や社会の問題を自分の事として捉え、よりよい社会の一員として必要な知識・スキルを身につけさせる。	B A		
	特別活動	最高学年として、各クラス・各学年・各科の生徒が連携し合える体制づくりに努める。	A		
	学校行事や部活動の活性化	伝統の継承と新たな取り組みの適切な融合を図り、学校行事や部活動の活性化に繋がるよう生徒とともに計画を進める。 学級や学校に対して課題意識を持ち、よりよい改善に向けた行動ができる生徒を育成する。	A A		
電気科	学習意欲の向上と基礎学力の確実な定着	授業規律を確立・維持し、授業をしっかり受ける姿勢と心構えを養う。 実習などの集合時間(5分前行動)を厳守する。遅刻・欠席をなくす。(皆勤率 70%以上を目指す) 生徒一人ひとりに学習意欲を持たせる指導を行う。日々の授業を通して基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、学力向上を目指す。	B B A	B	
	資格取得を奨励し、生徒の技術力向上と向学心の育成	資格取得を通して、向学心を高め、基礎的な専門的知識や技能を身につけさせる。 電気科として目標とする資格試験を精選し試験日程に合わせた補講計画を組む。(昨年度:電気工事士 92%合格) ものづくりを通して調査研究や考えることの大切さに気づかせるとともに創造力や技術力を身につけさせる。	A A A		
	自己指導能力を身につけさせ、社会の変化に対応できる進路指導	インターンシップなど教育活動を通して系統的な職業観・勤労観の育成を図る。	A	A	
		様々な機会を通して進路に関する情報を提供し、第一希望の進路先に決定できるように指導する。 面接指導・学力指導・進路ガイダンスを早い時期から行い、実践的な能力を身につけさせる。	A A		
	電子機械科	進路実現を目指した資格取得の推進	資格・検定試験へ生徒自らが主体的にチャレンジし、ジュニアマイスター認定30名以上を目指す。 専門性の高い知識と技術の深化・統合化を行い、学ぶ意欲や基礎学力の向上を図る。 進路実現を目指し、1年次よりキャリア教育を推進し、努力し続ける姿勢を養う。	A A A	A
		ものづくりを通じた学習指導	ものづくりコンテスト・溶接競技会の上位入賞及び技能検定の取得を目指し、技術力の向上や知識の定着を図る。 実習等のあらゆる機会において、安全教育における6S(整理・整頓・清掃・清潔・作法・安全)の徹底を図る。 ICT機器の活用を積極的にを行い、聴いて・視て・対話して学ぶことで、学習意欲の向上を図る。	A A B	
あらゆる機会を捉えての生徒指導		基本的な生活習慣を確立し、遅刻・欠席を減らす等、日常の中で指導し、皆勤者8割以上を目指す。	B	B	
		礼儀正しく元気な挨拶、服装・頭髪を整えることで、三池工業生としての規範意識を身につけさせる。 科・系職員間での情報交換を密にし、生徒理解に努め、積極的に横断的な生徒指導を行う。	B A		
情報電子科		規範意識の醸成に向けた指導	規則正しい生活習慣と、予防を含めた毎日の体調管理を意識させ、皆勤率85%を目指す。 時間の厳守・身だしなみ・清掃・立ち止まり挨拶・言葉使い等の徹底した指導を行う。 科会議において生徒に関する情報共有を徹底し、組織的に規範を意識づける指導を行う。	B A A	A
		基礎学力の向上と目標の進路実現	定期的な面談に加えて適宜面談を行い、生徒個々に合った学習法を提示し、基礎学力の向上を図る。 明確な進路目標を持たせ、キャリア教育を通して目標実現のための計画と取組みを実行させる。 資格取得を通して目標を設定するとともに、ICT機器により効果的かつ計画的に学習する態度を醸成する。	A A B	
	企業が求める人材の育成	企業情報収集能力の育成を行い、企業が求める人材をよく理解させ、第一希望進路100%を目指す。 インターンシップや工場見学等を通して、勤労観や社会人の心構えを養う。 工技基、実習、課題研究等で基礎的・基本的な技術や技能を身につけさせ、技能検定全員合格を目指す。	B A B		
	土木科	規範意識の醸成	元気よくさわやかな挨拶を行う習慣を日ごろから指導していく。 教室やロッカーの整理や荷物の管理を行い環境整備に努める。 遅刻、欠席、早退を減らし皆勤者80%を実現させる。	A B B	B
		土木技術者の育成	各種資格試験の指導を科全体で指導し技術者としての誇りと進路意識の向上を図る。 高度熟練者による実習指導を活用により最新技術に触れ進路目標の明確化を推進する。 ものづくりコンテスト(測量部門)上位入賞を目指す。	B A B	
		ものづくりを通じた人材育成	体験教室などのものづくりにより思いやりを持った技術者としての人材育成を図る。 地域と協力したイベントに参加し、地域社会の発展を目指した人材の育成を図る。 課題研究や実習を通して協調性や行動力、探究心を高める社会人としての基礎力の育成を図る。	A A B	
工業化学科	自立できる生徒の育成	基本的な生活習慣を確実に身に付けさせ、遅刻・欠席を減らし、皆勤率80%以上を目指す。 頭髪服装や挨拶、言葉遣い、時間厳守などルールやマナーを守ることができる態度を育成する。 一人一人が支えられていることを知り、感謝の気持ちを行動で表すことができる態度を育成する。	C B A	B	
	確かな学力の育成と進路実現に向けたキャリア教育の充実	生徒が課題を理解し、問題解決に向けて計画的に取り組み基礎学力の向上を目指す。 授業・実習、課題研究の改善に積極的に取り組み、主体的・対話的で深い学びが実現できる環境を整える。 面談・面接指導等、生徒の希望と適性に応じた進路指導を充実し、進路実現(第一希望100%)を目指す。	B A A		
	創作工夫と主体的な行動のできる化学技術者の育成	課題研究や実習を通して化学の面白さを体験し、中学生や地域に発信する機会を設け、生徒の自尊感情が高揚することを旨とする。	A	A	
		インターンシップや工場見学、高度熟練者による指導を通して専門性の向上を図り、自ら将来を切り開いていく力を育てる。	A		
		国家資格の合格者増加やものづくりコンテスト優勝に向けて、科の職員全員で指導する。	A		

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<p>これまでの新型コロナウイルス影響で、学校行事についてはゼロからのスタートとなり、生徒たちが企画し体育祭、文化祭など実施するなかで、新しいものを創り上げたことは大変素晴らしい。最上級生としての自覚を持ちリーダーシップをよく発揮したと思う。</p> <p>進路指導についても、生徒・保護者に対して適切な情報を提供し、進路指導部と協力して的確な進路指導ができていると考える。今後もこの成果を蓄積し、次学年に引き継いで指導体制を確立していただきたい。</p> <p>資格取得に関し、意欲を持って取り組む生徒が多く、ジュニアマイスターを取得する生徒が多かったことは、学習意欲の向上に繋がっているように思われる。</p>
A	<p>第1種電気工事士の合格者15名、第2種電気工事士の合格が2年生で28名は素晴らしい結果である。生徒へ目的意識を持たせ、指導を十分に行っている成果である。今後は、電気主任技術者第3種などハイレベルな国家資格の合格者を出せるように指導体制を作っていたきたい。</p> <p>大牟田市動物園への給餌器の製作など、専門性を活かした地域貢献を行っている。今後も電気科だからこその地域貢献への継続した取り組みをお願いしたい。</p>
A	<p>資格取得を積極的に行い、生徒の学習の意欲向上及び専門的知識や技術の習得に繋げている。特に、旋盤技能士等の国家資格に挑戦し実績を上げている。</p> <p>今年度の高校生ものづくりコンテスト九州大会で2位の成績を収めたことは大変素晴らしいことである。安全教育の充実を図るとともに、旋盤競技や溶接競技などのものづくりに関する技術向上についても引き続きしっかりとした指導をお願いしたい。</p>
A	<p>資格取得に熱心に取り組む国家資格の電子機器組立てにおいて多くの合格者(39名)を出すなど素晴らしいことであり、しっかりとした指導体制ができてきているのと考える、次年度についても継続した取り組みを行い、ICTを活用した新しい補習の取り組みを実施し、さらに成果を上げていただきたい。</p> <p>工業高校は就職する生徒が多いため、出席率については、卒業後においても社会人としては重要なことである。今後も基本的な生活習慣の確立を目指し更なる指導をお願いしたい。</p>
A	<p>今年度、土木技術職の公務員に延べ10名もの合格者を出したことは素晴らしいことである。補習等も含め指導体制が確立しているからであると思う。測量士補や2級土木施工管理補等の国家資格では、昨年度より合格者を増やすなど取り組みに成果が現れている。今後は、生徒に対し国家資格取得の意識付けに努め、指導方法の更なる研究をしていただき、全員合格を目指し頑張ってもらいたい。</p>
A	<p>甲種危険物取扱者を2名合格したことは工業化学科の専門性を活かした資格取得であると思う。また、防災・減災教育の取り組みは学科の特色を全面に出し、中学校への出前授業を行うなど中学生や地域に対し積極的に科の魅力ある教育内容のPR活動に繋がっている。今後も継続して、基本的な生活習慣及び資格取得の更なる向上を図るために指導体制の充実をお願いしたい。</p>

### 自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・基礎学力及び学ぶ意欲の向上:授業におけるICT活用による授業改善及び学習アプリの活用を推進し、基礎学力の定着を図る。また、観点別評価における評価標準の明確化を行い充実を図る。
- ・主体的活動の推進:生徒会活動・部活動・ものづくり活動の活性化を図り、生徒が自ら課題を見出し解決策を考え主体的に行動できる力を養う。
- ・自己指導能力の育成:日々の教育活動を通して、規範意識・所属意識を高め、自らを律し適切な行動できる生徒を育成する。
- ・進路指導の充実:キャリア教育の充実を図り、早期に進路に対する意識付けを行うことで、学校生活に目的意識を持たせ、進路実現に向け自らの意志と責任で進路を選択し決定する力を身に付けさせる。
- ・広報活動の充実:HPやインスタグラム、中学校進路説明会、FMラジオ(FMたん)と、地域のイベントへの参加など広報活動を積極的に行い、地域や保護者が学校の教育活動に対して理解していただくことで中学生の志願希望者の増加に繋げる。
- ・地域貢献活動等の充実:ものづくりの専門高校としての特色を生かし、生徒が主体となり積極的な地域貢献活動に取り組めるように指導と支援を行うとともに関係機関との連携を推進する。

評価項目以外のものに関する意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくり活動を通じた地域貢献ができる取り組みの推進</li> <li>・基本的な生活習慣の確立と生徒の規範意識、帰属意識及び自尊心の向上</li> </ul>